

独自生地の販路開拓

石川の繊維加工各社 収益拡大へ

石川県内の繊維加工各社が独自開発品の販路開拓を加速している。自社ブランドの生地を使ったコートなどの試作品を展示会に出展したり、来年の秋冬用にジャケット生地を開発したりする動きが出ている。今月18日にアパレルなど需要家企業を招いた「アパレル産業連絡懇談会」が県内初開催として金沢市で開かれるのを機に売り込みを強化、収益拡大につなげる。



自社で企画した生地をコートなどにして提案（石川県中能登町の丸井織物）

14日に東京で開かれた展示会「プレミアムテキスタイルジャパン」に初めて出展した。生地の特徴などを実際に見てもらい、需要家の拡大につなげる狙いだ。

繊維メーカーの羽田（能美市、羽田従之社長）は来年の秋冬物向けに、保温や蓄熱効果のあるジャケット用の生地を売り出す。比重が1より小さい（水より軽い）軽量素材のポリプロピレン繊維を使用した。ポリエステル繊維を配合するなどして質感を向上させ、衣料

に加工した際の着心地を良くした。

ニットメーカーのムツミテキスタイル（小松市、大宮睦夫社長）も来年の秋冬用に新しい生地を開発した。肌触りが良く光沢があるのが特徴のトリアセテートという繊維を使った。自社の東京支店（東京・渋谷）を通じて、婦人服のアパレルに売り込む。

今年、産地の現状を見てもらうことを目的に初めて県内で開催し、合わせて工場見学も実施する。商談会では県内企業の新素材を使った衣服を試作。実際にモデルに着用させ、アパレルなどに商品化した際のイメージを高めてもらうことで需要増加を目指す。

18日に金沢市で開く「アパレル産業連絡懇談会」は地元の繊維関連企業18社と県外のアパレル・スポーツ衣料企業をつなぐ本格的な商談会。石川県や繊維リソースいしかわ（金沢市、伊藤靖彦社長）など3社・団体が主催し、08年から年一回、県内の糸加工や染色、産地元売り商社の販路開拓を目指して東京で開いてきた。

国内織物メーカー大手の丸井織物（中能登町、宮本徹社長）は、自社企画の生地ブランド「MARUTEX（マルイテックス）」を拡販する。

ODM（相手先ブランドによる設計・生産）での導入を促進するほか、自社で原材料を購入し販売まで手掛ける取引形態を

扩大到。2016年12月期までに売上高に占める比率を10年12月期の5割から7割に高める。同生地ブランドを使った紳士用コートやジャケットの試作品を、10月12

扩大到。2016年12月期までに売上高に占める比率を10年12月期の5割から7割に高める。同生地ブランドを使った紳士用コートやジャケットの試作品を、10月12